

レスリング選手の性格特性(第3報)

——ジュニア選手(18才~20才)の国際試合前後に
おける情緒の変化と成績との関係について——

RELATIONSHIPS BETWEEN CHANGES OF CHARACTERISTIC TRAITS OF YOUNG AM- ATEUR WRESLERS AND PERFORMANCES OF INTERNATIONAL MATCHS

滝 山 将 剛*

Yukitaka TAKIYAMA

I. はじめに

筆者は、世界選手権大会に出場したアマチュアレスリングの選手について、その試合前後にYG性格検査を実施し、その変化を分析することから、性格(情緒)的側面の変化(違い)が実際の試合における勝敗にいかに関与しているかについて、二、三の例についてすでに報告した。オリンピック大会や世界選手権大会を経験した選手でさえも試合前後の性格プロフィールの変化は、神経質的になり、客観性を失い、抑うつ的で劣等感を持つという傾向を示していた。この傾向は心理的には試合を行なう上でマイナス面に作用すると思われる因子が試合前に大きくなり、試合後に小さくなることを示していた。このように人間の情緒的側面を含めた性格は非常に動揺しやすく、それ

が故にレスリングの技術的な側面に優るとも劣らないほど実際の試合(それが大きな試合であればあるほど)において選手の實力発揮の面で無視できない大きな問題点である。

そこで本研究は、精神面で成長期にある18歳~20歳までの若い選手(ジュニア世界選手権大会出場選手)について、国際試合という実際の試合場面で、性格の1つの側面である情緒面がどのような変化の様態を示し、それが試合の成績にどのように影響していたかに興味を持ち検討した。

II. 調査方法及び被験者

被験者は、1981年7月11日~7月18日までカナダ・バンクーバー・サイモンフレイジャー大学において開催された、1981年世界ジュニアアマチュアレスリング選手権大会の日本代表選手、フリー

* 国士舘大学体育学部格技研究室
Department of Wrestling

スタイル10階級 (48kg級, 52kg級, 57kg級, 62kg級, 68kg級, 74kg級, 82kg級, 90kg級, 100kg級, 100kg以上級) の10名, 同じくグレコローマンスタイル10階級の10名を対象にした。対象とした被験者の氏名, 年齢, 階級, 今大会の成績を表1に示した。

調査方法については, 矢田部・ギルフォード性格検査 (以下YG検査という) を使用し, 試合前後を中心に7月7日から7月23日の約3週間の期間中に合計5回実施した。その結果を得点化して, 性格プロフィールの5つの型に分類し検査ごとの得点の変化から, これを性格特性の中の情緒的側面の変化としてとらえ検討した。第1回目は出発の前日 (7月7日), 第2回目はグレコローマンスタイル試合前夜 (体重をリミットに調整後; 7月10日), 第3回目はフリースタイル試合前後

表一1 ジュニア選手 (18才~20才) の氏名, 年齢, 階級及び今大会 (1981年アマチュアレスリング世界選手権大会) の成績一覧表

(フリースタイル) 於: カナダ, バンクーバー

氏名	年齢	階級	今大会の成績
S. I.	20才	48kg	優勝
Y. N.	20才	52kg	6位
K. N.	19才	57kg	2回戦失格
M. U.	20才	62kg	予選ブロック4位
K. N.	19才	68kg	4位
N. H.	20才	74kg	2位
T. M.	18才	82kg	2回戦失格
T. S.	20才	90kg	予選ブロック4位
T. H.	18才	100kg	4位
M. M.	20才	100kg以上	予選ブロック4位

(グレコ・ローマンスタイル)

氏名	年齢	階級	今大会の成績
N. K.	19才	48kg	2回戦失格
M. M.	20才	52kg	3位
T. O.	19才	57kg	4回戦失格
K. D.	20才	62kg	2回戦失格
S. N.	20才	68kg	6位
K. F.	20才	74kg	2回戦失格
H. H.	20才	82kg	2回戦失格
M. H.	20才	90kg	2回戦失格
K. I.	20才	100kg	6位
T. T.	19才	100kg以上	2回戦失格

(体重をリミットに調整後; 7月14日), 第4回目は帰国途中ハワイ滞在中 (7月23日), 第5回目は帰国後1週間以内 (日時は指定せず) に実施した。

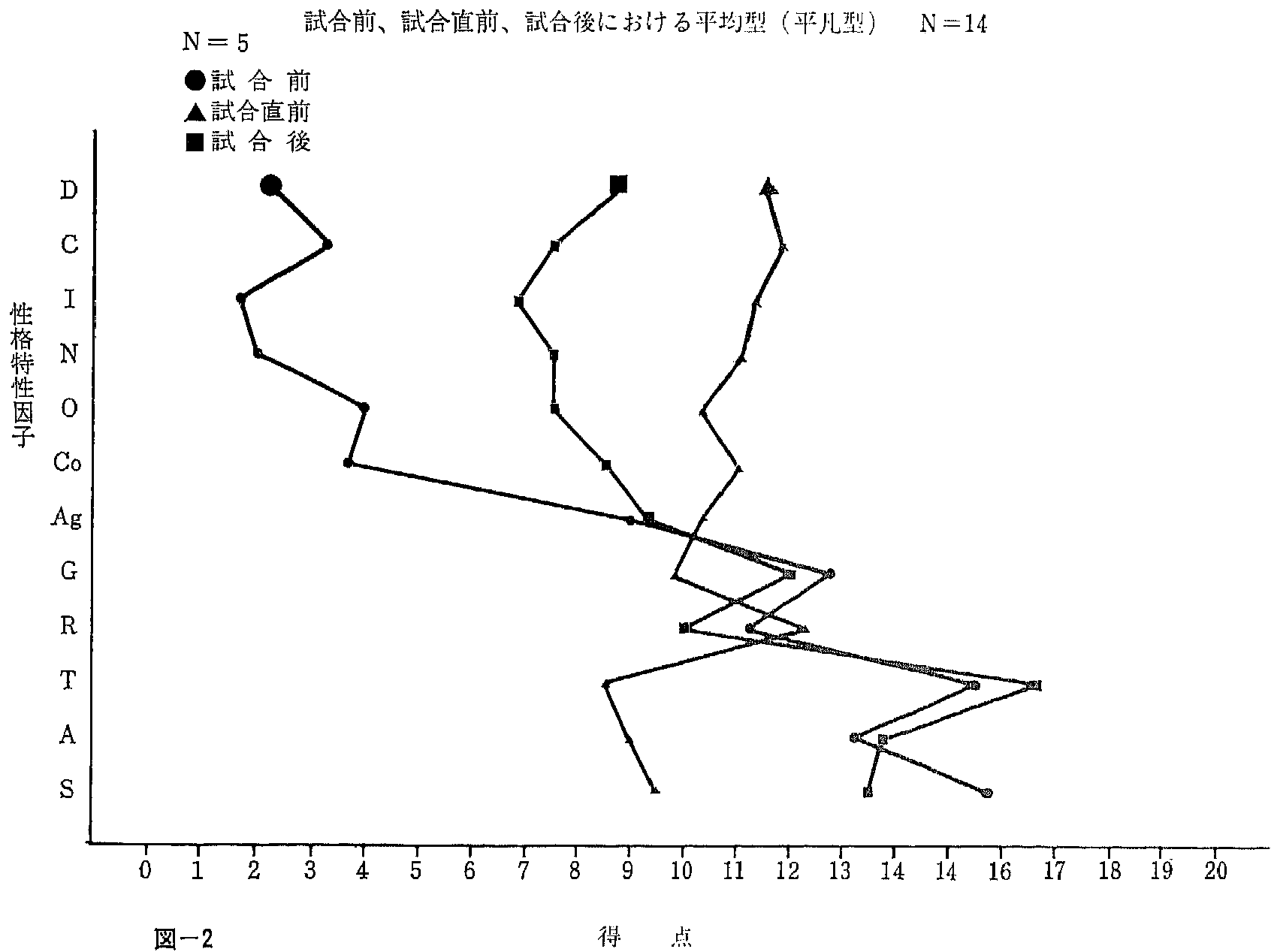
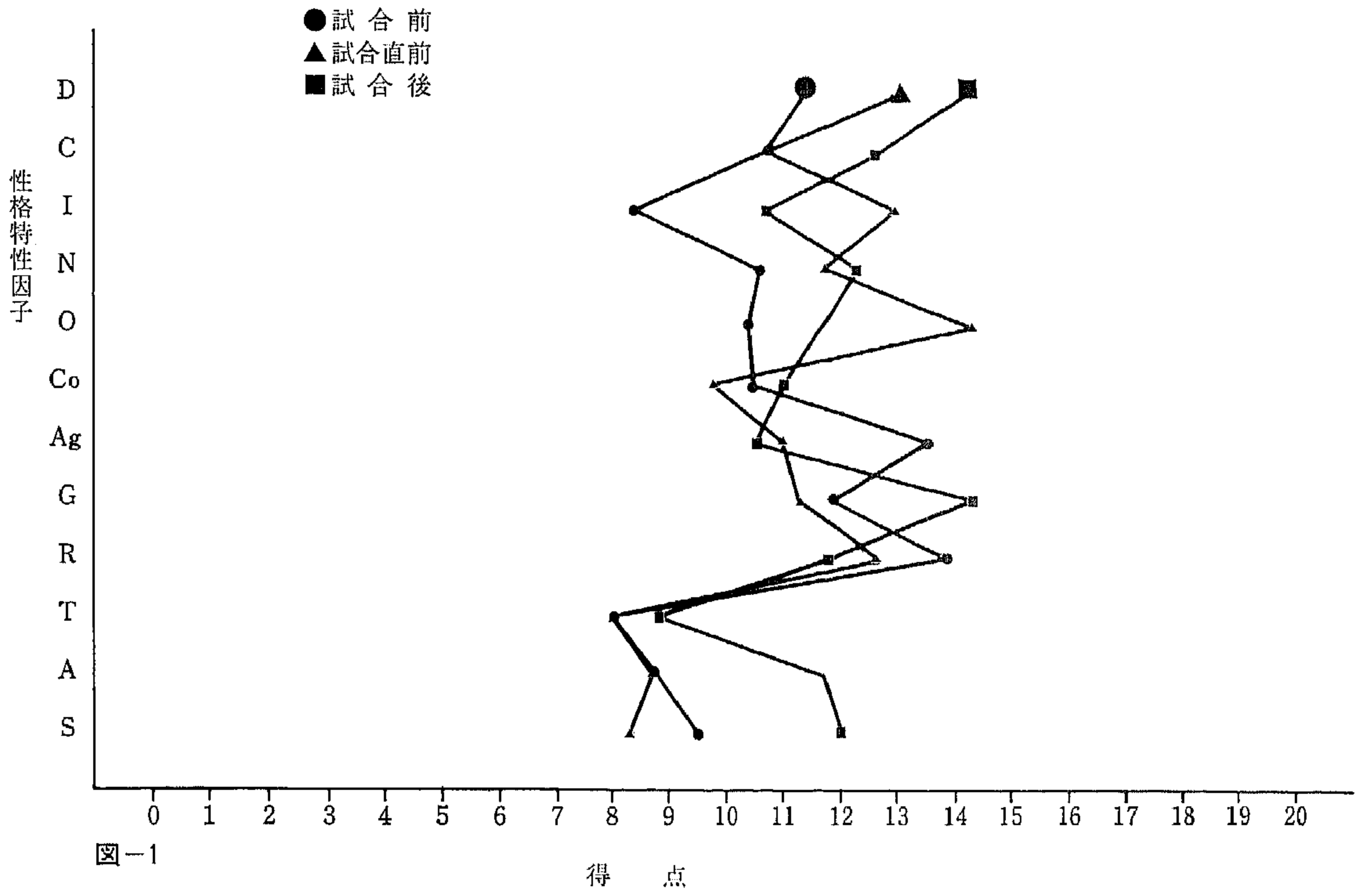
本報告では, 特にジュニア (18歳~20歳) のレスリング選手の性格特性と試合前後の情緒的变化に関心があり, それを検討することが目的であることから, 試合前のデーターを試合前, 試合直前の2つ, 試合後の合計3回のデーターを使用し, それぞれを性格プロフィールにして検討した。

III. 結果と考察

合計20名の被験者をその試合前の性格プロフィールから分類してみると大きく2くつのタイプに分類可能であった。1つは, 右下がり型 (安定積極型) で6名, 平均型 (平凡型) で14名であった。右下がり型の中の1名は, 試合前後の性格プロフィールの変化がさほど著名ではなく, 積極的な意づけが不可能であったことから考察の対象から除外し, 残り5名をデーターとし考察した。

平均型14名の性格特性及び試合前後の変化について, その平均値をプロットしたものが図1である。同様に, 右下がり型5名の性格特性及び前後の変化について図1と同様の方法でプロットしたものが図2である。これらより, 平均型の性格プロフィールを示した選手は試合前後においてもその情緒的側面について著明な変化は認められなかった。しかし, 右下がり型の性格プロフィールを示した選手においては, 試合前後のプロフィールの変化を対応させてみると (●印と▲印の比較) 著明な変化を示していた。つまり, D (抑うつ性), O (客観性), Co (協調性) の各尺度において, それぞれ試合前は抑うつ性, 気分的変化, 劣等感は小さく, 神経質でなく, 客観的で協調的であったものが試合直前になると著しくその逆の変化を示していた。そして, これらの諸側面は, 試合が終ると徐々に元の状態にもどっていくことを示していた。

次に注目される点は, 試合前とその直前, 直後における思考及び社会的内・外向 (TとSの尺度) という尺度の変化である。思考的内・外向という面では, この性格を示す選手は試合直前に著しく内向的に傾き, 試合を前にして孤独に陥って行く



試合前、試合直前、試合後における安定積極型（右下がり型）

傾向の強いことを示していた。また社会的側面においても内向的に傾き思考的側面と同様自己を孤立的立場に追いやって、試合を行うのに不利な状況を作り出す傾向にあることを示していた。これらの2つの性格特性の違い選手が示した試合前、試合直前及び試合後の性格プロフィールの変化と実際の試合の成績を対応させてみると(表1参照)どのようなことが示唆されるであろうか。予想通り、試合前と試合直前における性格(情緒)的側面の変化の著しかった右下がり型の選手は期待に反し、その試合成績は思わしくなかった。それに反し全員ではないが、平均型、つまり試合前及び試合直前における情緒的側面に著しい変化の認められなかった選手はほぼ実力通りの成績を納めていたことが注目される。

これらのことから、レスリングの技術的な側面のトレーニングと同様、その実力及び技術の十分な発揮に不可欠な精神的側面において、実際の試合にのぞんで日頃の精神的安定を保ったままで試合を遂行できるような選手を育成する手段がなされるべきであることが示唆される。

スポーツ医・科学の発展によりあらゆる方法のトレーニング法が考察されたことにより体力、技術面においては飛躍的な進歩を成し遂げているのに比較し、この精神面の実際のトレーニングは今だ各コーチの経験や指導という科学的裏付けに乏しい手段にゆだねているのが現状である。近年心身医学においてとみに強調されている心身は表裏一体の原則を忘れてはならない。ことに、精神的・肉体的にも成長期にある若い選手については、個々の能力をより上手に引き出す上に、精神面と肉体面の並行した強化に有効な手段を開発するような努力することが急務であると考えられる。

IV. ま と め

国際試合の日本代表ジュニア選手(18歳~20歳)各階級20名について、国際試合前後にY・G性格検査を実施し、その性格特性のプロフィールの変化

から次のような知見を得た。

1. 20名中6名が、右下がり型(安定積極型)、14名が平均型(平凡型)の性格プロフィールを示していた。

2. 試合前後の性格プロフィールの変化は、右下がり型(安定積極型)の選手が性格プロフィール中、神経質になり、客観性を失ない、抑うつ的で劣等感を持つという心理的には試合を行う上でマイナス面に作用すると思われる因子が、試合前に大きくなり、試合後に小さくなることが認められ、この性格プロフィールの変化が直接試合の勝敗に大きくかかわっていることがわかった。平均型(平凡型)についてはこの傾向はみられなかった。

今後の課題として、先の報告と本報告では、国際級(シニア、ジュニア)レスリング選手の性格特性を調べ、その性格特性と、試合前後の情緒的(心理的)側面に焦点を当てたが、レスリング選手のコンディショニングで最とも影響のある減量の段階での情緒的(心理的)側面について調査を行うつもりである。

終りに、調査に協力してくださった、松浪健四郎先生(専修大学)に感謝します。

参 考 文 献

- 1) 花田・竹村・藤善共著(1968) ; スポーツマンの性格, 不味堂, P. 83-92
- 2) 滝山将剛(1979) ; レスリング選手の性格特性(第1報)—試合前後の変化について—, 国士館大学体育学部紀要, Vol. 5, P. 31-37
- 3) 滝山将剛(1980) ; レスリング選手の性格特性(第2報)—反応時間と性格特性との関係—, 国士館大学体育学部紀要, Vol. 6, P. 15-22
- 4) 滝山将剛・笠井達哉(1980) ; スポーツマンの性格特性, 国士館大学体育研究所報, Vol. 1, P. 19-30
- 5) 辻岡美延(1978) ; Y・G性格検査実施手引, 日本心理テスト研究所